

ヤマト福祉財団NEWS

Yamato Welfare Foundation 2010 Summer

7月20日発行 No27

平成22年度 障がい者福祉助成金の贈呈式を 全国各地で行いました



6月21日に行われた関東支社の贈呈式。「NPO法人CILひこうせん」木村 浩章理事長に贈呈書を渡す長尾 裕支社長(写真右)

私たちの賛助会費が活かされています

■障がい者福祉助成金

助成先レポートVo.7 〈会津若松市〉

温かいごはんを
待つ人がいるから、西へ東へ

スワン工舎 卒業生訪問4

この街で一緒に生きていく
障がい者のクロネコメール便
配達

みんなに人気のお寿司を支える一員に

チャレンジする権利は、
すべての人にある。

YWF TOPICS

平成22年度

障がい者福祉助成金の贈呈式を 全国各地で行いました

ヤマト福祉財団では、障がい者の自立と社会参加、
工賃アップ・生産性アップに直結する事業に対し、
障がい者福祉助成金を贈呈しています。
平成22年度は87件・計6800万円の助成先を決定し、
各地で贈呈式を行いました。



リヤカーで販売する 豆腐が町の人気に



NPO 法人まつかぜの会
「福祉作業所 豆腐工房豆
のちから」(千葉県松戸市)
理事長
柳町美恵子さん

豆腐工房の始まりは、7年前のパワーアップセミナーに参加した理事長の柳町さんが、当時の「蔵王すししろ」の武田さんのお話を聞いて「できるかもしれない」と思ったのがきっかけでした。はらから福祉会「蔵王すししろ」で作る豆腐を販売する仕事です。最初は職員も「豆腐なんて売れるわけない」と反対。それでも豆腐を取り寄せて、「お豆腐一つでも配達します」というキャッチフレーズで、販売先を広げていきました。

当初は「仕入れて売る」形だったものが3年半経った今では、利用者さんも豆乳から豆腐や豆乳プリンを作るようになりました。

「利用者さんは販売に行くのも楽しみにしています。リヤカーでの販売が人気になり『いらつしやいませ、ありがとございました』をきちんと言って、地域の中で活動しています」と柳町さん。販売用によやく購入した1台目の車に、リヤカーをのせて団地の販売に回っていますが、1日の売上げ目標9万円をさらにをパワーアップしよ



▲関西支社



▲関東支社



◀東北支社



▲北海道支社



▲北信越支社



▼四国支社



▲東京支社



▲中部支社



▲沖縄ヤマト運輸



▲九州支社



▲中国支社



利用者さんが描いた作品

利用者さんたちの埋もれた才能を引き出してあげば、ここから新しい作家が誕生するかもしれませんね（笑）と坂岡理事長の夢は広がります。

からしだねワークスが、新事業として取り組んでいるのが印刷・製本・出版です。事業をはじめるときは、病気を抱えながらも自分らしく生きていく様子を描いた利用者さんの漫画でした。この作品をもっと多くの方に見てもらいたい、そんな思いから一昨年コピー機やパソコンを使い手作りの本を製作。すると新聞やTVに取り上げられ、予想外の反響があったのです。自分たちで出版物の企画や製作、印刷の受注ができれば、新たな就労の場を提供できるかもしれない……そこで手作りから一歩進んだ印刷業務を行うため、丁合機や製本機などの印刷機械を購入する資金の助成を申請しました。



精神障害者通所授産施設「からしだねワークス」（京都府京都市）理事長 坂岡隆司さん

ここから作家を輩出することが夢です

うと、今回の助成金で2台目を購入しました。第一段階の目標である工賃3万円の実現に向けて頑張っています。

★就労継続支援施設に助成金★宇和島



川崎四国支社長(右)から目録を受け取るゆいの里の利用者

ヤマト運輸の関連団体ヤマト福祉財団は7日、宇和島市三間町増田の就労継続支援施設「ゆいの里」(山下みい子所長、32人)に食品加工場の改造工事費100万円を贈呈した。

同財団は障害者の自立と社会

参加を支援するため、福祉団体などに設備改修や備品購入費の助成を行っている。今年はゆいの里を含む全国87団体に計6800万円を贈る。

贈呈式では川崎良弘ヤマト運輸四国支社長が、利用者の渡辺大輔さん(28)に目録を手渡した。山下所長は「食品加工場で漬物などを作り、仲間の工賃に回そうとみんな張り切っている。ありがとうございました」と謝辞を述べた。

同施設は納屋を食品加工場に改築工事中で、完成後は利用者が栽培した野菜の漬物やもちの製造などを計画している。

各地で報道
されました

帯広ケアセンター 真空包装機を導入 ヤマト財団が助成

帯広市内の指定障害福祉サービス事業所「帯広ケア・センター」(片平修所長)は、障害者の自立と社会参加を支援する「ヤマト福祉財団」(本都東京)の助成金を受け、真空包装機1台を導入。14日午後、時から同施設で贈呈式が行われた。同施設で生産した余剰や規格外の野菜を加工し



贈呈書を片平所長(右)に手渡す藤原支店長

て販売する試みで、利用者の仕事量が増えて工賃向上につ

帯広毎日新聞
2010年5月18日

北海道支部の贈呈式は、プレス空知(5月10日)にも掲載されました

川上主管支店長(前列中央)から受けた通知をする各団体の代表者ら



県内4団体に
助成金を贈呈
ヤマト福祉財団

ヤマト福祉財団(本部・東京)の助成金贈呈式は二十四日、郡山市日和町のヤマト運輸福島主管支店で行われた。「共働作業所ピーターパン」(会津美里町)が百万円、「地域活動支援センターなのはなの家」(福島市)が七十一万円、フルクテ「夏井」(いわき市)が七十七万円、「就労継続支援B型きぼうのあさがお」(南相馬市)が九十万円の助成を受けた。福島主管支店の川上伸次主管支店長がピーターパンの穴沢信弥理事長、なのはなの家の佐久間勉福島支部委員長らが同席した。財団運営に参画しているヤマト運輸労組の

福島民報 2010年5月25日



作業所など運営7団体に607万円
ヤマト福祉財団
ヤマト福祉財団(東

京)は二十四日、障害者の自立と社会参加を支援しようとして、九三年から実施。これは全国六百五十一件の応募から八十七件を選び、計六千八百万円の助成を決めた。贈呈式は名古屋市中区のホテルであり、七団体のうち六団体の代表が出席。ヤマト運輸中部支社長の森田出男さんから贈呈書を受けた。県内で唯一選ばれた「地域活動支援センターむぎの花」(豊明市)の岡本美枝子理事(宝くは「これで印刷機が購入でき、チラシを作ることができる。地域に私たちの活動を知ってもらえっかけになれば」と喜んだ。

中日新聞社
2010年6月25日

平成22年度 障がい者福祉助成金決定一覧

■施設の整備・改善、備品の購入 ▼6,316万円 単位(万円)

地 域	団 体 名	決定額
北海道	三笠市 三笠市ななかまど共同作業所	65
	空知郡 砂川市つむぎの家	65
	札幌市 聴覚障害者支援センターほほえみ	100
	帯広市 帯広ケア・センター	32
青森県	弘前市 であいの家あうん	100
宮城県	加美郡 クローバーハウス	30
	仙台市 仙台ローズガーデン	60
山形県	山形市 ワークランドベにばな	12
	米沢市 かにの家	100
福島県	大沼郡 共働作業所ピーターパン	100
	福島市 地域活動支援センターなのはなの家	71
	いわき市 フルクテン夏井	77
	南相馬市 就労継続支援B型さぼろのあさがお	90
茨城県	高萩市 はっぴい・べる	100
	水戸市 障がい者自立支援事業所 ディライトホーム	78
栃木県	栃木市 蔵の街ウェイブ第1事業所	86
埼玉県	さいたま市 スワンベーカーリー北浦和店	100
	羽生市 チュリリップ	100
	八潮市 工房森のこかげ	73
	行田市 多機能型障害福祉サービス事業 所こころ	69
千葉県	市原市 シーモック	38
	松戸市 とうふ工房豆のちから	95
	茂原市 特定非営利活動法人スペースびあ	100
	船橋市 地域活動支援センターカレーサ	76
	君津市 心身障害者小規模福祉作業所コッペ	79
	四街道市 障がい者就労・生活さぼーとピース	56
神奈川県	南足柄市 中沼コスモス学園	100
	横浜市 カフェベーカーリーぶかぶか	100
	横須賀市 あんしん農園	20
東京都	世田谷区 しごと	100
	練馬区 共同作業所W I T H	13
	東大和市 ライブリー工房	22
	多摩市 ぐりーんびーす工房	39
新潟県	糸魚川市 メモリアルホームみずほ	100
	新潟市 グループホームはっとスペース	100
富山県	中新川郡 多機能型わくわくファームきらり	100
石川県	白山市 就労支援事業所あじさい	100
福井県	越前市 障害福祉サービス事業所 びーぶるファン	62
長野県	岡谷市 希望の里つばさ	40
	長野市 キッチンC o C o	100
	飯田市 あゆみ園	100
岐阜県	郡上市 ぶなの木学園	37
	美濃加茂市 心身障がい者小規模授産業ひま わりの家	100
静岡県	三島市 ワークショップまごころ	90
	島田市 障害者支援施設こころ	100
愛知県	豊明市 地域活動支援センターむぎの花	80
三重県	鳥羽市 就労継続支援B型事業所海の子	100
	名張市 サンフラワー名張ファクトリー	100
京都府	向日市 ワークショップ友愛印刷	37
	京都市 精神障害者通所授産施設 からしだねワークス	100
	八幡市 やわた作業所	100

■施設の整備・改善、備品の購入 単位(万円)

地 域	団 体 名	決定額
京都府	京田辺市 ふくろう共働作業所	100
	宇治市 宇治川福祉の園	100
大阪府	貝塚市 ほっこりの里	100
	大阪市 ワークスペース街(マーチ)	70
	寝屋川市 あすなろ障害者作業所	100
	枚方市 やなぎ工房	100
	大阪市 ゆうゆう美波途	20
	河内長野市 共働事業所「かすみ荘」	100
兵庫県	たつの市 特定非営利活動法人愛ランド	100
	豊岡市 やすら樹	100
和歌山県	有田郡 つくし共同作業所	100
	和歌山市 事務支援センターソーラナ	54
鳥取県	鳥取市 Studio-E	100
島根県	大田市 知的障害者通所授産施設ひまわり	17
岡山県	備前市 浜っ子作業所	100
広島県	安芸郡 特定非営利活動法人福祉工房むぎ	24
	広島市 就労継続支援B型事業所 ワークショップウイング	67
山口県	萩市 のんきな農場	100
	光市 就労継続支援施設森林の里	100
徳島県	阿波市 特定非営利活動法人スマイル	100
香川県	高松市 もえぎの里	50
	さぬき市 サンガリハビリプラザ	100
愛媛県	宇和島市 ゆいの里	100
福岡県	福岡市 地域活動支援センターともとも	39
	直方市 多機能型事業所直方ハビリセンター	60
熊本県	熊本市 社会福祉法人くまもと障害者 労働センター	40
大分県	別府市 社会福祉法人太陽の家	98
鹿児島県	鹿屋市 就労継続支援B型ふれあい スペースちえすと	100
沖縄県	中頭郡 北中城村障害者地域活動支援 センターあざみ	85
	中頭郡 ソーシャルサポートアソシア	100

■各種会議・講演会・研修事業 ▼184万円

地 域	団 体 名	決定額
北海道	札幌市 北海道潰瘍性大腸炎・クローン病友の会	30
宮城県	仙台市 財団法人仙台市身体障害者福祉協会	54
福岡県	北九州市 ふくおか視覚障害者雇用開発 推進センター	100

■各種出版、啓発事業 ▼100万円

地 域	団 体 名	決定額
東京都	新宿区 特定非営利活動法人タートル	100

■各種調査、研究、文化、スポーツ事業 ▼200万円

地 域	団 体 名	決定額
東京都	港区 社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会	100
東京都	中野 きょうざれん	100

■詳細は財団ホームページをご覧ください

<http://www.yamato-fukushi.jp/>

私たちの賛助会費が活かされています ■ 障がい者福祉助成金

助成先レポート

Vol. 7



温かいごはんを

待つ人がいるから、西へ東へ

特定非営利活動法人 自立援助センター雑草の会
キッチンモモ 福島県会津若松市

会津若松駅から車で10分。緑鮮やかな田園と住宅が混在する町中に、「みんな、仲間」をモットーとする小規模作業所キッチンモモがあります。主力事業のお弁当販売には土地柄、配送用の車が欠かせません。

勇気を持って地域の中へ

午前11時過ぎ。お弁当を積んだ4台の車のエンジンがかかりました。キッチンモモのいつもの風景です。うち一台は当財団

の助成を得て、2007年の夏に加わった配達車輛です。

1997年、養護学校卒業生3名からスタートした小さな共同作業所は、いまや地元・会津若松市内で入所希望の一、二を争う期待の存在になりました。その原動力ともなったのが、2004年から始めた配食事業です。きっかけは5周年の記念として近隣にお花を配った際に告げられた一言でした。

「えっ、作業所って、いつからあったんですか？」地域とともにあることを心がけていた所長の皆川さんはこれに愕然としました。そして、もっと率先して地域に出ていかないと本当の理解は得られない、との思いを強くします。では何をやっていい

んだろう？ 思案の結果、「おやつは食べなくても、ご飯はかならず食べる」。そうだお弁当屋さんをやろう！当時、パワーアップセミナーにも参加し、就労に取り組んでいた皆川さんは決意しました。

お弁当の配達を終えて全員集合、最後列右から
労働組合福島支部中村書記長、財団東北支部小原事務長、労働組合福島支部佐久間委員長



キッチンモモのロゴマークが入った配達車



労働組合支部執行委員長

助成先 訪問 シリーズ 2

自分たちならではの サポートを模索したい



● ヤマト運輸労働組合
福島支部執行委員長
佐久間 勉さん

待っている方がいらっしゃるから、どんなに遠方でもお弁当をお届けする——。私たちも日々、お客様にお届けものをしています。今日は改めて〈原点〉を見つめることができました。

例年、「夏のカンパ」運動で一人ひとりが寄付という形でボランティアを行っています。お金だけではなく何か自分たちなりの確固たるお手伝いがしたいですね。

キッチンモモさんの例で言えば、毎日相当な距離を走っています。今カバーしているエリアの受注を増やしてより密にできれば売上は確実に増すでしょう。たとえば、キッチンモモさんをご紹介するチラシを投函するようなボランティアはできないか？

彼らの目の輝きに添えて、具体的に何か関わっていききたい気持ちになりました。



佐久間委員長も配達に同行



メニューのお知らせを
兼ねたチラシ

大きめのお弁当が
500円(左)、小さ
いお弁当は450円



所長の皆川カヨ子さん



手作りにこだわった温かいお弁当

安否確認でプラスαの サービス



配達と同時に安否確認も。配達時に倒れた人を発見して通報し一役買ったこともあります(写真はいつも注文をいただく牧原さんに鈴木香好子さんがお届けしました)

キッチンモモの配食事業には、ただのお弁当販売にはない特色があります。高齢者向けのお弁当サービスの場合、配達時にお客様の顔を直に拝見して安否確認を自主的に行うことにしたの

一台の到着をみんなで待った

「正直、あまりに遠くて受注を迷うケースもありました。でも、食事に困って電話をくださったのだから、お引き受けしようって」と皆川さん。

一台目の配送車両を購入した

当初、キッチンモモのある会津若松市内2kmを配達範囲と決めていましたが、今ではかなり遠方からの依頼もあって、4台の走行距離は一日で計70kmにも達します。

「お弁当事業を始める前は70万円程度だった売上が、今年900万円を超え、工賃は7.5時間勤務の場合、3万円弱に届きました。しかし、これで十分だとは考えていません。不景気で売上が伸び悩む今、夜のお弁当配達も始めました。」

「一般就労に進みたい人にとってはステップの一つとして。しかしそうすることが難しい人



お弁当づくりの分担、配達ルートも利用者さん自身が決めて仕事を進めます

にとっても、いい仕事ができ、自分の意見を言える作業所として、モモを守っていききたいです。工賃についても3年後には5万円くらいにしたいですね。今年中には出張所を新たに立ち上げる計画も立てています。

ヤマト福祉財団では、設立以来障がいのある学生に奨学金を贈呈し、通学時の困難や授業のための負担増の軽減に利用していたでいています。そして、学校を卒業した奨学生も増え始め、社会生活に踏み出す人も出ています。一方で奨学生との懇談の中で国の制度の狭間での苦勞も話題（財団ニュース No. 26 巻頭企画）となりました。「障がいのある者の実状をあまり知らないことが根底にあるからではないか。」素朴な疑問を投げかけた合川公理さんに、現在、政府が進めている「障がい者制度改革推進会議」の傍聴と報告を依頼しました。

障がい者制度改革推進会議は、国連の「障害者の権利条約」の発効と日本国の署名を受けて、平成21年12月8日閣議決定により内閣府に設置された、障がい者制度改革推進本部が開催している会議です。障がい者施策の推進事項について意見を求める場として位置づけられ、当事者を含む25名の委員構成となっています。「障害者の権利条約」の締結に向けた国内法の整備を始めとした制度の集中的な改革を行うことを目的とし、当面5年間を制度改革の集中期間として進めることとなっています。さらに4月12日には55名の委員を擁する障がい者総合福祉部会を設置して、幅広く意見を収集する仕組みを作っています。6月28日現在、既に15回を開催し、制度改革の第一次意見がまとまろうとしています。

合川公理さんが傍聴したのは、4月12日に霞が関の合同庁舎第4号館共用220会議室にて開催された第7回障がい者制度改革推進会議で、主な議題は、交通アクセスと建物の利用、情報アクセス、所得保障、予算確保への課題の四つです。それに対して課題や意見を各委員が発表しました。活発な意見の中でどのように整理してまとめられていくのでしょうか。まず、当事者が関心を持つことが求められていく時代が訪れようとしています。

※障がい者制度改革推進会議の様子は、内閣府・障がい者制度改革推進本部のホームページで動画が配信されています。

障がい者に関わる制度の狭間をなくしてほしい。

元奨学生、障がい者制度改革推進会議を聴く



第7回障がい者制度改革推進会議 4月12日

わたしの感じた「障がい者制度改革推進会議」——● 合川公理

穏やかな雰囲気から一変、緊張感とともに始まった会議

今後の障がい者福祉政策を議論していく場である障がい者制度改革推進会議の第7回目が行われました。開始30分前から会議が行われる内閣府の一室に委員の人々やその介助者、内閣府の事務局の人々、傍聴の人々等続々と集まって来ました。今後の障がい者福祉政策を考える重要な会議であることから私は、障がい者の一人として緊張していました。委員の人々は笑顔を浮かべ会話をする人、昼食を取る人等、穏やかな雰囲気の人々が多く見受けられました。各障がい当事者や関係者の間で構成された会議であり、私は密度の濃い議論を期待しました。

会議が始まると穏やかな雰囲気から一変し緊張感が漂ってきました。会議は内閣府の事務局の人々が進行役となり進められました。会議の進行は議論のテーマごとに委員の人々から事前に得た意見を事務局の人々がまとめた内容を読み上げる所から始まり、読み上げた中で事務局サイドがポイントとなる点を挙げ、議論するという形でした。時間配分については各テーマの内容を読み上げる部分が約10分、各議論の部分が約30分でした。それぞれの委員が各テーマの議論の場で専門分野の障がい別に鋭い意見を述べられました。

印象に残った住宅費の保障

私はその中でも所得保障における障がい者の住宅費を保障するべきだという議論が印象に残りました。なぜなら人間が生きていくための衣食住の中でも衣と食は節約したり減らすことが可能だが住は不可能であるのに加え、現在の日本のシステムでは住が確立されていないと就職等様々な分野で不都合が生じる人権の根幹に関わる問題だからです。

その他にも各委員が事前に作成してきた意見書を用いて話す各分野の障がい者で現在抱えている問題の解決に向けた提案は今後の障がい福祉をステップアップさせるのに説得力のあるものでした。

提案や主張より、もっと議論を

今回の会議の取材を終えてみて、今回の会議は各障がい分野における制度提案会のようなものを感じられました。委員20人程度に対して各テーマに与えられた議論の時間は約30分であり、全員で議論するには余りにも時間が無く、ただ進行を担当した事務局が疑問に感じた点に関心を示した委員が、意見をいくつか述べて議論は終りという感じになってしまっていました。また、委員それぞれの人々の意見を聞いていても自らの専門の障がいの問題解決に対する主張に留まっていました。提案や主張はより多く議論することにより良い制度へと変わっていくものであり、ただ提案と主張を繰り返すだけでは推進会議はパフォーマンスに終わってしまうのではないかと懸念されます。

画期的な会議に様々な世代の意見を

しかし、この会議はこれまでになかった各分野の障がい者が一同に会する画期的な会議であり、各障がい者の共通理解や他の障がいの人へ自分の障がいのことを伝え理解し合う点で必要不可欠だと思います。今後のこうした会議が将来に向けて発展していくためには多様な意見を反映させる工夫と、会議を構成する人々を様々な世代から選出していくことも必要であると私は考えます。

合川公理さん

今春大学院を卒業し、これからは自分の力で介護サービス会社を経営することが目標となっています。卒業後に社会保険労務士の資格を取るために通う筈だった専門学校も、登校初日に学校が入居しているビルの前でバリアフリーになっていないことが判り通学を断念。現在、通信教育に切り替えて勉強中です。



障がい者制度改革推進会議構成員名簿

大久保 常明	(福)全日本手をつなぐ育成会常務理事	堂本 暁子	前千葉県知事
大谷 恭子	弁護士	中島 圭子	日本労働組合総連合会総合政策局長
大濱 眞	(社)全国脊髄損傷者連合会副理事長	中西 由起子	アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表
◎小川 榮一	日本障害フォーラム代表	長瀬 修	東京大学大学院特任准教授
尾上 浩二	(NPO)障害者インターナショナル日本会議事務局長	久松 三二	(財)全日本ろうあ連盟常任理事・事務局長
勝又 幸子	国立社会保障・人口問題研究所情報調査分析部長	○藤井 克徳	日本障害フォーラム幹事会議長
門川 紳一郎	(福)全国盲ろう者協会評議員		日本障害者協議会常務理事
川崎 洋子	(NPO)全国精神保健福祉会連合会理事長	松井 亮輔	法政大学教授
北野 誠一	(NPO)おおさか地域生活支援ネットワーク理事長	森 祐司	(福)日本身体障害者団体連合会常務理事・事務局長
清原 慶子	三鷹市長	山崎 公士	神奈川大学教授
佐藤 久夫	日本社会事業大学教授		
新谷 友良	(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会常務理事	オブザーバー	
関口 明彦	全国「精神病」者集団運営委員	遠藤 和夫	日本経済団体連合会労働政策本部主幹
竹下 義樹	(福)日本盲人会連合副会長		(敬称略五十音順)
土本 秋夫	ピープルファースト北海道会長	※◎は議長、○は議長代理。	

この街で、
一緒に生きていく。



(財)ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

チャレンジする権利は、 すべての人にある。

「社会福祉法人さるびあ会」さるびあ作業所は、メール便配達を始めてやっとひと月。メイトさんも職員も、毎日が新しい挑戦です。さまざまな経験を積み重ねながら、すでに確かな手ごたえを感じている。さるびあ作業所。取り組みひと月目の、作業所とメイトさんを訪ねました。



福岡空港から車で約30分。さるびあ作業所のメイトさんが毎日配達する道には、麦の穂が黄金色に輝いて揺れていました。さるびあ作業所がメール便配達を開始したのは、今年の4月7日。それから1ヶ月が過ぎていました。

メイトさんの山本浩二さんは今朝も職員の小川さんと、自転車でヤマト運輸の筑紫野支店へメール便を引き取りに行きます。ここでの朝の挨拶も、しっかりとできるようになりました。

受け取ったメール便を施設に持ち帰ると、小川さんとともに仕分け作業。それが終わると、地図で今日配達するルートづくりです。

小川さんによると、最初は一軒一軒の場所はわかっても、それぞれの結びつきを考えるのが難しかったそうです。しかし地図にラミネートを施し、ルートを毎日蛍光ペンで描くようにすると、作業はすぐにスムーズに。「試行錯誤を



ヤマト運輸の寺田課長に教わりながら、新しい端末に興味深く操作する山本さん(中央)。職員の小川さん(右)が、いつも寄り添ってサポートしています。

まだメイトさんが一人だけのさるびあ作業所では、配達するメール便を1日20冊前後に調整しても

新しい端末にも、
楽しそうにトライ。

繰り返すうちに、山本さんも我々もどんどん成長しました。もうほとんどの行程は、慣れましたよ(小川さん)山本さんが一人でセンターに引き取りに行くのも、近いようです。

●福岡主管支店 福岡筑紫野支店

面積87.973Km²／人口97,571人／
世帯数35,284世帯

●社会福祉法人さるびあ会 さるびあ作業所

知的・身体・精神障がいなど、21名が所属。
メーカーから委託の備品製作、ジャム製作販売、清掃業務他
2010年4月メール便配達開始。現在メイトさんは1名。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」

お問い合わせは……(財)ヤマト福祉財団 メール便担当

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

<http://www.yamato-fukushi.jp/>



昔、自分も通っていた保育所では、山本さんはいつもメール便を手渡ししています。子供の頃の彼を知っている先生に、よく頑張っているねと声をかけられていました。

読み取り精度が増した新端末に、山本さんは興味津々です。ヤマト運輸福岡主管支店 寺田課長が手渡すと、すぐにボタンを操作。ひと通り説明を終えると、山本さんはすでに楽しそうに使いこなしています。

実はこの日、山本さんにまた初めての経験が待っていました。メール便の配達を管理する、端末と呼ばれる新しい情報入力機器が届いたのです。それまで配達先で、端末がバーコードをなかなか読み取らないときがありました。そんなときにどう対応するのが、山本さんの課題のひとつになっていたのです。

ました。使いやすくなった端末に、うれしいと話します。

家に帰ってきたときの表情が違う、とお父さん。

新しくなった端末での初めての配達が始まりました。心配した戸惑いなどはまったくなく、山本さんはいつものように自転車にのり、3軒目そこそおそろおそろでしたが、ラクに使いこなしています。ピツと入力できると楽しそうです。

そしてこの配達の中に、ひとつのサプライズがありました。山本さんのお父さんが、家の前に出て待っていてくれたのです。実は担当地区は、偶然にも山本さんの住む地域。山本さんのお父さんは、時々こうして山本さんが配達で回ってくるのを、出迎えているそうです。

「メール便の配達を始めてから、家にたまたま帰ったときの表情が、本当に変わりました。満足って顔なんです」とお父さん。山本さんも照



れながらも、いつもガンバレって言うてくれると笑顔で話します。家族のあたたかな応援にも支えられながら、今日も無事にメール便配達を完了しました。

できることじゃなく、やりたいことに挑戦する。

「さるびあ作業所」がメール便配達事業にトライするきっかけは、山城施設長がヤマト福祉財団の「障がい者の働く場」パワーアップセミナーに参加したことでした。さまざまな方の話を聞くうちに山城施設長は、あることに気づいたそうです。「これまで自分ではできなかったことをやってきただけじゃないのか」

とやる。それが夢を実現することなんだ、ということを感じたそうです。「施設に通う障がい者は、できることをやっているだけで、でき



お父さん(右)と山本さん。担当地域は偶然にも山本さんの住む地域。お父さんは時々、山本さんが外で働く姿を、家の前に出て見守っているそうです。

るかどうかわからないことはやっていたなかった。新しいことにチャレンジする権利を、忘れていたんじゃないかと、はっとしました」と山城施設長。意識が、そこから変わったそうです。それからすぐにメール便配達事業にエントリー。やりたいと自ら手を上げた山本さんと、メール便配達というチャレンジが始まったのです。

まったく心配はいらないとアドバイス。

ヤマト運輸福岡筑紫野支店の瀬戸口支店長は、当初「さるびあ作業所」と何回も打ち合わせを持ちました。最初は、初対面の方との対応などに、不安を持っていたそうですが、しかし、しっかりと挨拶する山本さんと会うと、これは大丈夫だと確



右から/ヤマト運輸福岡主管支店メール便営業課 寺田一也課長、「さるびあ作業所」職員 小川晃さん、山本浩二さん、山城重守施設長、ヤマト運輸福岡筑紫野支店 瀬戸口弘志支店長、ヤマト福祉財団 目野和彦事務長

信したといいます。

ヤマト運輸の寺田課長は、初めて作業所に委託をする瀬戸口支店長に、絶対間違いないからと言ってアドバイスしたそうです。「これまでのいろんな施設とお付き合いしてきましたが、非常にまじめで、正しいやり方で仕事をしてくれる。まったく心配はありません。誤配もクレームもホントに聞かないんです」と絶大な信頼をおいています。これからも、どんどん振っていききたいと話します。

1ヶ月が過ぎた今、山城施設長はいきいきと仕事に取り組み、山本さんを見て、他の人にもトライして欲しいと考えています。今、やりたいと希望している方が4人いるそうです。他の事業所とも、できるなら一緒にやりたいと話します。「希望する人が全員、この仕事にチャレンジできるようにしたいんです」(山城施設長)

チャレンジすることは大変だけど、そこにはチャレンジした人だけが味わえる喜びがあります。メール便配達はその喜びを体験できるよい機会になれたらと願います。



「さるびあ作業所」山城重守施設長。これまでは、施設に招くことで地域の人たちとの交流を図ってきました。メール便配達は、こちらから地域に参加できる、その意義も大きいと話します。

みんなに人気の かつば寿司 お寿司を支える一員に。



求人折込広告を見て、自ら希望した回転寿司店。そこでお寿司の要、「シャリ炊き」を任されている矢島秀和さんを訪ねました。

左奥から宮下正大店長、矢島秀和さん、キッチンリーダーの後藤慎吾さん、井上隼人主任

■ヤマト自立センター スワン工舎新座 就労に必要なスキルの習得や、就労先の開拓、就労後の定着まで。障がい者が地域で自立するための、総合的で一貫性のある支援をしています。就労実績:47名

■カッパ・クリエイト株式会社 回転寿司レストラン「かつば寿司」を北海道・四国を除き全国に広く展開。店舗数約360店を数え、低価格で高品質な商品を提供しています。本社は埼玉県さいたま市。



3台のお釜で次々とシャリ炊きをこなす



矢島秀和さん(平成21年1月5日入社)
「仕事を楽しんでいます。いなり寿司を作るのをがんばりました」と矢島さん。たくさん仕事をした日には、満足そうな顔をして家に帰ってくるとご家族の方も話しています。



カッパ・クリエイト株式会社本社
人事部給与課 課長 石川純弥さん

やさしく
そしてきびしい
職場のなかで

誰もが気軽においしいお寿司を愉しめる回転寿司。そのキッチンが、スワン工舎新座を昨年卒業した矢島さんの職場です。

たくさんのお客さままでにきわう「かつば寿司」新座店。矢島さんが担当するのは寿司で一番大切なシャリを作る仕事です。20kg炊きの大きなお釜を3台使い、次々とお米を炊きあげ寿司飯を作っていきます。平日は午前でシャリ炊きを終え、食器の洗浄をしています。客足の集中する休日は朝から晩までシャリ炊き。平日の3倍ものお米を炊くこともあります。

「最近仕事にもすっかり慣れたみたいです。その分、すこし余裕を持ちすぎてるくらいもあるのですが、びしびし厳しく指導していいこうと思っています。(笑)」と店長の宮下さん。いなり寿司

つくらせてみると、ふつくと程よいシャリの詰まり具合を、最初から上手につくったので驚いたと言います。

本社で障がい者採用の窓口をされている人事部の石川さんによると、カッパ・クリエイト株式会社が採用でもっとも重視するのは、本人の意思です。

「大々的な障がい者雇用を当社が始めたのは一昨年から。日が浅く、障がいのある方向けの教育マニュアルも定まっておらず、まだ手探りの状態です。だからこそ希望者には一人ひとり、きちんと実習を受けていただいて、ご本人の挑戦する気持ちを確認し、3ヵ月間のトライアル雇用を設けて、と順を踏んだ採用を進めています。働いていただく以上、しっかりとした関係を築き上げていきたいからです。」

カッパ・クリエイト株式会社では今後、障がい者の自立をバックアップするためにも、マニュアルの策定や1店舗1名採用の体制を、一歩ずつ目指していく方針だそうです。



かつば寿司 新座店 店長
宮下正大さん

●プログラム内容

タイムスケジュール	▼プログラム▼
10:00	開会 基調講演 「成功する事業開発のアプローチ。オンリーワンビジネスモデルの創出！ーヤマトグループを事例として」 講師：有富慶二（財団法人ヤマト福祉財団理事長）
11:15	飽くなき挑戦「障がい者の雇用・就労支援と私が大切にしているもの」 講師：歴代のヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者
13:15	わかりやすい時事講座 「新たな政策潮流と障がいのある人たちのディーセント・ワーク」 講師：藤井克徳（日本障害者協議会 常務理事）
14:45	行動につなげるシンポジウム 「障がいのある人びとの労働・雇用支援の現状と課題」 様々な働き方をしている障がいのある人からの新作ビデオレターも紹介。
16:45	アンケート記入
17:00	終了
17:15	サンドイッチ交流パーティー
18:00	解散

どなたでも
ご参加
いただけます！

障がい者の働く場や施設・事業所のあり方を実践している講師の方々と考え、各地の実行委員会の協力も得ながら、地域での取り組みも交えたフォーラムを開催します。
これからの障がい者の働く場づくりをともに学ぶ場として、幅広く関心のかかる方々のご参加をお待ちしております。

障がい者の働く場

パワーアップフォーラム開催

●日程&会場

日 程	会 場
8月 6日	岡山会場（岡山コンベンションセンター：岡山市）
8月27日	宮城会場（仙台国際センター：仙台市）
9月 3日	北海道会場（札幌コンベンションセンター：札幌市）
9月17日	大阪会場（新梅田研修センター：大阪市）
10月 8日	名古屋会場（名古屋市国際展示場：名古屋市）
10月15日	東京会場（灘尾ホール：東京都）



財団ホーム
ページから
お申し込み
ください。

参 加 費	無 料
定 員	各会場 200 名
申 込 期 限	各会場の開催日 2 週間前まで
参 加 対 象 者	福祉施設関係者、当事者、家族ほか、障がい者の働く場づくりに関心のある方 ※すべての会場で手話通訳・要約筆記があります。
参加申込み方法	1 施設から 5 名まで参加可能です。所在地域外への参加も可能になります。 参加申し込みは、下記財団ホームページの申込入力画面より登録してください。 ウェブ登録が困難な方はファックスでも受け付けます。 ◇財団ホームページアドレス http://www.yamato-fukushi.jp

「僕にもできる仕事があつて、うれしい」

スポットライトを浴びながら報告した

障がい者のクロネコメール便配達本人による特別報告会 イン 大分市コンパルホール

6月19日(土)、大分市コンパルホールにて、大分地区で2回目となる本人特別報告会を開催。基調講演で「障がい者が働くということ」について学び、9施設、23人のクロネコメイトさんが、自分の工夫や、配達先での出来事を報告しました。



動画も交えたスライドで報告した「太陽の家」石橋 竜さん



報告者全員に記念品を贈呈したヤマト運輸(株)久保俊治 大分主管支店長



雇用についての考え方を話す大分大学 教育科学福祉部 工藤修一先生



「ちちんぷいぷいあけぼの」新納 睦さん



緊張しながら話した「どんぐりの家」森 哲郎さん

空を飛べなくとも困らないのは、みんなも空を飛べないから

大分大学の工藤修一先生は、基調講演の中で、事前に作業所どんぐりの家と作業所すばるで実際にクロネコメール便配達に同行し、クロネコメイトの仕事ぶりに感動したことを報告。そして、参加者にこう問い掛けました。「空を飛べなくて困ることはありますか？」会場でお互いに顔を見合わせていると、「困りませんよね。それは、みんなが飛べないからなんです。みんなが飛べることができないと困るときがありますね。それが障がいになるのです。」「できることに目を向ければ、みんなと同じ。仕事もこの視点から行えばいいんです。」

仕事は、面白い。お金のためだけじゃない。

「働くことは、ツライ、イヤだ。でも苦勞することが働く喜びの原点です。そして、成長したときに面白い、うれしいという気持ちになります。それが人生を豊かにするんですよ。」

かにするんですよ。」

このように考えて、障がい者の人に様々な形で仕事を提供されることにより、みんなが人生を豊かにすることができるとを判りやすく説明していただきました。

3年間の成長がうかがえた本人報告

大分県では、12箇所の配達施設のうち9施設が参加。ステージでは、スライドで配達の様子が見映され、スポットライトの下で23人が本人報告を行いました。

どんぐりの家の森哲郎さんは、脳性まひがあります。「メール便配達を始めて思うことは、こんな僕でもできることがあるということ。困ったことは、階段の上り降り、手の震えで違うボタンを押してしまうこと。まだ3ヶ月だけども、頑張りますのでよろしく願います。」とこれからの抱負を報告しました。

ちちんぷいぷいあけぼのの新納睦さんは、「はじめはメール便の配達を指導員の人の助けにより配達していたけど、今では

ステージの上で記念撮影



ご協力ありがとうございました。(発表順)
小規模通所授産施設 どんぐりの家 地域活動支援センター ワーク大分すみれ会 障害福祉サービス事業所つわぶき園 障害福祉サービス事業所メロディNPO法人ちちんぷいぷいあけぼのやまなみ作業所(社福)太陽の家ワーカービリティ事業部 NPO法人作業所すばる NPO法人べつづ優ゆう

はじめて聞いて、とても感激しました

報告終了後、ヤマト運輸(株)大分主管支店 久保主管支店長より、「みなさん、配達ご苦労さまです。関係者のみなさまもご尽力いただき、感謝申し上げます。大阪から異動してきたので、報告会にはじめて参加しましたが、本当に感激しました。配達時の苦労がとてもリアルに伝わり耳にしっかりと残りました。私も10年間ドライバークラスをしていますが、みなさんと同じ苦労を思い起こしました。これからも、安全に配達してください。」とクロネコメイトさんを慰労。その後、報告者に記念品を贈呈し、クロネコメイトのみなさんも胸を張って受け取りました。

大分のクロネコメイトのみなさん。ご報告ありがとうございました。

工賃5万円をめざして 働くちから革新塾がスタートします

財団では工賃5万円を実現する早道として、小倉昌男賞受賞者の取り組みを水平展開するプロジェクトを“私塾形式”で実施します。その第1回目として『働くちから革新塾』の公募説明会を6月3日、品川カンファレンスセンター（東京）で開催しました。

革新塾は第9回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者の武蔵野千川福祉会チャレンジャー施設長、新藤 薫さんをリーダーとして、内職下請け作業を行っている施設責任者のみなさんが、知的障がい者の働く力を引き出すことを学びあいながら、3年間で平均5万円の工賃を目指す道筋を作ります。

公募説明会では、リーダーの新堂さんが工賃アップに向け、DM封入・発送作業で成果を上げるようになった経過や、仕事の仕組みづくり、利用者さんや職員の仕事に対する意識づけなどについて、さまざまなお話をいただきました。

引き続き、アドバイザーとしてご協力いただく東京学芸大学菅野 敦教授からは知的障がい者の働く力のアセスメント（利用者の課題やニーズを客観的に捉え、原因究明や指導計画をたてる）や、工賃アップに向けての環境設定、工程分析をどう考え実施していくかなど、理論的な説明がありました。

全国から公募説明会に集まった17施設から核になる施設が決まる予定です。



公募説明会

22年度障がいのある大学生に対する 奨学金の支給者を決定しました

平成22年6月29日、ヤマト運輸株式会社役員会議室に於いて、奨学金選考委員会が行われました。在学中の



6月29日に行われた選考委員会

23名に加えて、本年度新たに11名を決定。本年度も34名に奨学金を支給することとなりました。



リーダーの武蔵野
千川福祉会チャレ
ンジャー施設長新
堂 薫さん

アドバイザーの
東京学芸大学
菅野 敦教授



公募説明会の翌日に行ったチャレンジャーの現地見学

スワンベーカーリーと施設のコラボレーションで お菓子の詰め合わせを販売しました

障害者ら作ったお菓子 いかが

大田区内の障害者授産施設と、障害者の雇用で知られる「スワンベーカーリー」が共同開発した菓子セット（1500円）が、真夏に、JR蒲田駅の駅ビル「フランドール」で発売されている。6月1日まで計200セットが売り出される。

JR蒲田駅で限定販売

今回の企画は、販路が不足がちな授産施設の商品を売り出すと、区がスワンベーカーリーの運営会社「スワン」(中央



読売新聞5月28日

この日販売を担当した小山万紀子さん(大田区立上池台障害者福祉会)と田澤早苗さん(大田区産業振興課・写真右)



それぞれの施設が作ったお菓子の詰め合わせ



オルセー美術館展2010 「ポスト印象派」

アンリ・ルソー
《蛇使いの女》
1907年



©RMN (Musée d'Orsay) / Hervé Lewandowski / distributed by AMF



フィンセント・ファン・ゴッホ《星降る夜》1888年 ©RMN (Musée d'Orsay) / Hervé Lewandowski / distributed by AMF

開催期間▶2010年5月26日(水)～8月16日(月)

休館日▶毎週火曜

開催場所▶国立新美術館 企画展示室2F

東京メトロ千代田線・乃木坂駅 青山霊園方面

改札6出口(美術館直結)

都営地下鉄大江戸線・六本木駅 7出口 徒歩約4分

東京メトロ日比谷線・六本木駅 4a出口 徒歩約5分

開館時間▶10:00～18:00 (金曜は20時まで)

※入場は閉館の30分前まで

入館料▶

	一般	大学生	高校生
当日	1,500円	1,200円	800円

※中学生以下無料

○障害者手帳をご持参の方および付添の方1名は無料。

問い合わせ先▶

ハローダイヤル 03-5777-8600

展覧会公式HP <http://orsay.exhn.jp/>

主催▶国立新美術館・オルセー美術館・日本経済新聞社

後援▶フランス大使館

協賛▶アサヒビール・NEC・花王・
キヤノン・KDDI・損保ジャパン・
ダイキン工業・大日本印刷・
大和証券グループ・大和ハウス
工業・三井物産・三菱商事
(50音順)



ポール・ゴーギャン
《タヒチの女たち》1891年

©RMN (Musée d'Orsay) / Hervé Lewandowski / distributed by AMF

Information
of the Art

19世紀末バリエに花開いた才能
絵画のありようを一変させた印象派。その影響を受けつつ、多彩なアプローチで20世紀アートの先駆けとなったのが「ポスト印象派」の画家たちです。

セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャン、スーラ…。いずれも革新的な表現を探究し、独創的な芸術世界を生み出しました。その成果は、世紀末パリの文化的諸相と濃密に絡み合い、豊穡なる香りを放つてやみません。

最初で最後。
オルセーの輝き一堂に
ポスト印象派の一大潮流を、贅沢にもオルセー美術館の代名詞とも言える名画の数々で俯瞰するのが本展覧会です。モネ5点、セザンヌ8点、ゴッホ7点、ゴーギャン9点、ルソ12点をはじめとする傑作115点が同時にフランス外に持ち出されたことはこれまでありません。しかも半数以上が同館より初来日！オルセーの改装に伴う類い希なるチャンスです。

本展の美術品取り扱いにヤマトロジスティクス株式会社は協力しています。

ヤマト福祉財団全国支部連絡先（ヤマト運輸（株）内）

支部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040
東北支部	小原 守	TEL.022-374-8065
東京支部	樋口光徳	TEL.03-5564-3705
関東支部	塚本良輔	TEL.045-508-6106
関東支部東地区	平井 忠	TEL.043-259-7364
北信越支部	南雲真一	TEL.025-231-9512
中部支部	矢野静香	TEL.052-725-3633
関西支部	石田久雄	TEL.06-6682-8570
中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
四国支部	久龍猛志	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3310
沖縄支部	古謝盛裕	TEL.098-840-3605

賛助会員個人51,372人 ヤマトグループ法人会員（2010年3月31日現在）

本誌の無断転載・転用を禁じます。©（財）ヤマト福祉財団



北信越支部
南雲 真一
新事務長に就任しました。
よろしくお願いいたします。